

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第113回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

腸内環境に基づく個別化医療・ ヘルスケアの必要性

福田 真嗣 先生

慶應義塾大学先端生命科学研究所 JSTさきがけ
株式会社メタジェン代表取締役CEO

平成30年4月17日（火） 17:30～18:30
歯学研究科大会議室（C棟1階）

ヒトの腸内には数百種類以上でおよそ100兆個にもおよぶとされる腸内細菌が生息しており、これらの集団（これを腸内細菌叢と呼ぶ）は宿主の腸管細胞群と密接に相互作用することで、複雑な腸内生態系を形成している。腸内細菌叢はヒトの健康維持に重要であるが、そのバランスが崩れると様々な疾患につながることから、腸内細菌叢は異種生物で構成される「もう一つの臓器」と捉えることもできる。われわれはこれまでに、腸内細菌叢の遺伝子情報と代謝動態に着目したメタボロゲノミクス解析技術を構築し、腸内細菌叢から産生される様々な代謝物質が生体恒常性維持に重要な役割を担うことを明らかにしてきた。本講演では、「腸内環境に基づく個別化医療・ヘルスケア」をキーワードに、個々人の腸内細菌叢の適切な制御による新たな健康維持、疾患予防・治療基盤技術の創出に向けたわれわれの取り組みについて紹介する。

連絡先：第113回モデレーター 齊藤 正寛（歯科保存学分野）